

BIM/CIM原則適用へ 多様化する取組み事例

設計 **施工** **維持管理** **計画**

BIM/CIM LIVE!!

日刊建設通信新聞社は、国土交通省が先導するBIM/CIMの最新動向を通じ、建設産業が進むべき3次元データ活用の方向性を探るウェビナー『BIM/CIM LIVE 2021』の第2回を開催した。2023年度のBIM/CIM原則適用に向け、取り組みが多様化する中、全国各地で進められている最新事例を紹介した。セミナーには1,600人を越える申し込みがあった。各講演のポイントをまとめた。

21年度の第9回セミナーでは、九州地方整備局河川事業課砂防課長によるBIM/CIMの取組みについてご紹介したほか、東北地方整備局の取組み事例を紹介した。また、セナ・協賛金のオリエンス、建設システム、タッソーシステム、日本オラクル、フォーラムエイト、福井コンピュータによるBIM/CIM最新ソリューションの発表もあった。

このほかパシフィックコンサルタンツが最新のBIM/CIM事例「金杉建設」を最新BIM/CIM事例「金杉建設」を紹介した。また、セナ・協賛金のオリエンス、建設システム、タッソーシステム、日本オラクル、フォーラムエイト、福井コンピュータによるBIM/CIM最新ソリューションの発表もあった。

第3回は12月17日 HPで参加受付

日刊建設通信新聞社は12月17日午後1時から、BIM/CIM LIVE 2021の第3回を開催いたします。参加は無料ですが、事前の参加登録が必要になります。本日より弊社HPで参加受付をスタートしました。

主催：日刊建設通信新聞社
共催：土木学会土木情報学委員会 施工情報自動処理研究小委員会
後援：国土交通省、日本建設業連合会、日本建設情報総合センター、建設コンサルタンツ協会、NPO法人グリーンアース

九州地方整備局

砂防CIMの基本フレーム構築

九州地方整備局の河川事業課砂防課では、砂防CIMの基本フレーム構築を進めている。水害、洪水、堤防の維持、農業用水の補給、水道水の補給、養殖水などの多目的ダムとなる。2018年度に本工事に着手し、2019年10月に堤体打設を開始、2020年度の竣工を目指し、現在堤体工事の進捗率は約80%となっている。

このほかパシフィックコンサルタンツが最新のBIM/CIM事例「金杉建設」を紹介した。また、セナ・協賛金のオリエンス、建設システム、タッソーシステム、日本オラクル、フォーラムエイト、福井コンピュータによるBIM/CIM最新ソリューションの発表もあった。

可児建設

可児建設は、DX化を進めるため「Visual Construction」に取り組んでいます。「VAUT」は映像と通信を統合した技術を活用し、現場とオフィスをつなぐ「VAUT」は、新技術・ICT対応と「VAUT」は、新技術・ICT対応

DXへ映像もデータベース化

可児建設は、DX化を進めるため「Visual Construction」に取り組んでいます。「VAUT」は映像と通信を統合した技術を活用し、現場とオフィスをつなぐ「VAUT」は、新技術・ICT対応と「VAUT」は、新技術・ICT対応

映像もデータベース化

映像もデータベース化

オートデスク

オートデスクが年に一度開催しているイベントAutodesk University (AU)と学習用リソース「BIM design」「Autodesk Knowledge Network (AKN)」について紹介する。

AUは、建築・土木・製造業のほか、メディア関係などさまざまな業界が集まり、情報共有や交流の場となっている。

河川堤防の草刈り作業も効率化

河川堤防の草刈り作業に活用可能な、全方位移動可能な「草刈りロボット」を開発した。作業効率を向上させ、安全性を高めることができる。

草刈りロボット

パシフィックコンサルタンツ

パシフィックコンサルタンツは、BIM/CIMの活用を推進している。最新の事例として「金杉建設」を紹介した。

パシフィックコンサルタンツ

図面作成自動化の試行スタート

国土交通省のBIM/CIM活用推進は2022年度に先導モデルとして実施し、以降は毎年、活用率が高くなる見込み。

図面作成自動化の試行スタート

3D地図上で発注者と情報共有

「CIMPHONY+」を生かし、3次元技術を実現現場で活用するためのクラウド座標管理と3次元モデルを用いた計画、遠隔検査を紹介する。

3D地図上で発注者と情報共有

建設システム

建設システムは、BIM/CIMの活用を推進している。最新の事例として「金杉建設」を紹介した。

建設システム

ダッソーシステムズ

ダッソーシステムズは、BIM/CIMの活用を推進している。最新の事例として「金杉建設」を紹介した。

ダッソーシステムズ

日本オラクル

日本オラクルは、BIM/CIMの活用を推進している。最新の事例として「金杉建設」を紹介した。

日本オラクル

東北地方整備局

維持管理活用へデータ蓄積

成瀬ダムは、秋田県東部の成瀬川建設中の洪水調節・水質浄化の維持、農業用水の補給、水道水の補給、養殖水などの多目的ダムとなる。2018年度に本工事に着手し、2019年10月に堤体打設を開始、2020年度の竣工を目指し、現在堤体工事の進捗率は約80%となっている。

維持管理活用へデータ蓄積

5年で自動化施工485万㎡

鹿島建設は、5年で自動化施工485万㎡を実現している。最新の事例として「金杉建設」を紹介した。

5年で自動化施工485万㎡

福井コンピュータ

福井コンピュータは、BIM/CIMの活用を推進している。最新の事例として「金杉建設」を紹介した。

福井コンピュータ